様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：２７４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６４２０６４７

研究課題名（和文）製糖業における工場と社宅街の建設が台湾の都市開発に与えた影響に関する研究

研究課題名（英文）Influence of Construction of Sugar Refinery Factories and Company House Districts on City Development in Taiwan

研究代表者
辻原　万規彦（TSUJIHARA, Makihiko）

熊本県立大学・環境共生学部・教授

研究者番号：４０３２６４９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，戦前期に台湾で建設された44カ所の全ての製糖工場と社宅街を対象として，製糖工場と社宅街の建設とその後が，周囲の街や集落に与えた影響を明らかにすることであった。そのためにまず，製糖工場と社宅街を対象とした空中写真と旧版地図の系統的かつ網羅的な収集を行い，44ヵ所全ての地図集を作製することができた。次いで，製糖工場と社宅街の復元配置図作製のための各種資料の収集を進めたが，資料の制約から，配置図の復元作業は難航した。そこで，打開策として，これまでの研究成果の整理を改めて行った。また，資料収集の過程で新たに見出した台湾や樺太の火災保険特殊地図の詳細な内容を検討した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine the influence of the construction of sugar factories and company house districts on city or town development in Taiwan before World War II during the Japanese administration period.
Many Aerial photos and old maps on sugar factories and company house districts were collected systematically and comprehensively. The atlas for 44 sugar factories and company house districts were made using these aerial photos and maps. Many materials also were collected in order to restore these factories' and company houses districts' former layouts. Since the restoration had the difficult process, past research results were re-examined in order to solve this problem. At the process for collecting these materials the fire insurance maps for Karafuto and Taiwan were newly discovered at the Chiyoda City's Hibiya Library & Museum. These fire insurance maps were compared with various other similar maps in order to identify the characteristics of these maps.

研究分野：建築史・都市史

キーワード：国際情報交換　台湾　沖縄　空中写真　旧版地図　工業　火災保険特殊地図　日本史

１．研究開始当初の背景

本研究課題の申請時における背景や研究の動機は，以下の通りであった。

(1)本研究課題着手前までの研究成果

研究代表者は，平成 20～22 年度の科研費（若手（B））「製糖業に関わる建築活動からみた戦前期日本の影響下にあった地域の相互比較」と平成 23～25 年度の科研費（基盤（C））「戦前期日本における製糖業を支えるネットワークの形成過程と特質に関する研究」を頂き，戦前期に日本の影響下にあった地域における製糖業に関係する建設活動，すなわち製糖工場と社宅街の建設過程に関する研究を行ってきた。

前者では，戦前期の日本の影響下にあった地域全てで営まれた唯一の産業である製糖業の全体像を把握することを目指し，各地で現地調査を行い，実態を明らかにしてきた。後者では，製糖業を取り巻くネットワークに着目して，さらに研究を深め，各地の製糖工場と社宅街を比較するための視点を設定して考察を進めた。

さらに，研究代表者は，平成 25 年７月から 10 月までの４ヶ月間，台湾の外務省にあたる外交部による「台湾奨助金」プログラムで台湾に滞在し，製糖業に関係する建設活動についての研究をより深める機会を得た。同時に，台湾の研究者らによる研究動向も詳細に知ることができた。

(2)本研究課題を着想するに到った経緯

これまでも研究対象としてきた南洋群島の３カ所，北海道の４カ所などに比べて圧倒的に数が多い台湾（44 カ所）に集中して，より多くの事例を扱い，相互に比較して分類を行うことで，製糖業の建設活動が周囲の街や集落に与える影響を，より深く考察することを考えた。そのために，本研究課題の申請の年度にあたる平成 25 年の７月から 10 月までの台湾滞在では，台湾側の研究者とより一層綿密な打合せを行い，各地の様々な機関での資料/史料の所蔵状況の把握に努めた。

一方で，台湾側の研究者や研究機関と協力して，製糖業に関する資料/史料の保存や整備に関わることも重要な責務であると考えた。申請者のこれまでの調査方法では，時間が限られていることを理由に，図面などの史料はデジタルカメラによる撮影で自分の研究資料にできれば良いと考えていた。もちろん撮影した画像は所蔵機関に還元はしていたが，他の研究者や次世代のことも考え，きちんとした整備を行う必要があると考え方を改め，そのために尽力することを考えた。このままでは，研究資源の搾取にも近く，戦前期のことも考えれば，大いに反省しなければならないと考えた。

(3)国内・国外の研究動向と本研究課題の位置付け

製糖業は，戦前期には「日本を代表する主力産業の一つであり，日本企業のアジア進出のプロトタイプともいえる海外展開を行った産業」(『日本経営史の基礎知識』(有斐閣))である。さらに戦後，1950 年代から 60 年代にかけては台湾の主力産業であった。したがって，製糖業は，台湾の文化の一面を形成しているとも捉えられる重要な産業である。そのため，経営史の分野からの研究が多い。

台湾における製糖工場と社宅街のうち，いくつかを取り上げた研究はこれまでにもあった。しかし，全ての製糖工場と社宅街を対象として比較を行った研究はこれまでにはなかった。また，これらの研究では，本研究課題で用いた空中写真や各種地図を全面的に用いることはできていない。

台湾側の近年の研究では，ある特定の製糖工場や社宅街を取り上げ，産業遺産としての活用の面に着目している。したがって，そこにどのようなものが建設され，人々がどのような生活を送っていたのかは，主な研究対象とされてはいなかった。

また，台湾では，政治的な問題もあり，郷土史もしくは地域史（区域史）の研究が盛んになったのは，民主化が進んだここ 20 年程である。その中でも各地の産業を対象とした研究は立ち後れている。例えば，台南市佳里に所在する南瀛国際人文社会科学研究中心には，台南地区における製糖業に関する貴重な史料群が所蔵されている。しかし，研究代表者が，本研究課題の申請前に現地で確認したところ，史料群が整理された 2004 年頃以降，ほとんど利用されていない状況であった。

２．研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は，以下の通りであった。

本研究課題の目的は，戦前期すなわち日本統治期に，台湾で建設された 44 カ所の全ての製糖工場と社宅街を対象として，製糖工場と社宅街の建設とその後が，周囲の街や集落に与えた影響を明らかにすることであった。同時に，台湾における製糖業に関する資料/史料の保存や整備に向けての体制作りにも関わることも目指した。具体的には，以下の通りであった。

(1)空中写真や旧版地図を用いて，どのような意図で，どのような製糖工場や社宅街を建設したのかを読み取り，さらにそこで送られていた人々の生活を明らかにする。

製糖会社の合併や戦後の接収の影響で，建設に際しての直接的な同時代の史料の入手は困難である。そのため，空中写真や旧版地図を用いて，全ての製糖工場と社宅街を比較して分類する作業を通じて，建設者の意図を推測しようとした。周囲の地形や工場用水に欠かせない水利の面からも検討を進めることも考えた。

(2)戦時中から現代に到るまでの空中写真や，明治期から現代に到るまでの各種地図を用いて，製糖工場や社宅街と周囲の街や集落との関係が，どのように変遷したのかを明らかにする。

郷土史や地域史（区域史）に関する各種資料/史料も活用して，製糖工場や社宅街と周囲の街や集落との関係の類型化を行うことを目指した。多くの製糖会社が合併を経験しているため，その前後での変化，さらには戦後から現在に到る変遷をも対象と考えた。

(3)当面は，台南市に所在する文物館（資料館）に所蔵されている史料群を対象として，製糖業関係の史料の保存や整備の体制作りに関わる。

主に各種の図面や地図，文書類を対象と考えていた。これらの様々な史料群は非常に重要であるが，日本語で書かれているために整理ができていないものも多い。保存状態も非常に悪く，時間とともに失われてしまう可能性も高い。ただし，実際の保存や整備作業に要する資金は，別に調達する必要があると考えていた。

３．研究の方法

研究期間中の平成 26 年度から平成 28 年にかけて，以下のような調査を行った。これらの調査を中心に，研究の具体的な様子については，ブログ「居住環境学科な日々」（http://ameblo.jp/m-tsuji/）で紹介した。

(1)平成 26 年度（１年目）

１年目の平成 26 年度は，これまでに収集した資料/史料や情報の整理とこれまでの研究成果の整理を行った後，具体的には，以下のように調査を実施した。

平成 26 年９月に台湾を訪問した。中央研究院のほか，国立台湾図書館，国家図書館などを訪問して製糖業に関係する資料/史料を収集した。また，渓湖糖廠，旧烏日糖廠，台北糖廠跡，宜蘭製糖所跡を対象に現地調査を行った。さらに，台南市に所在する善化糖廠内の善糖文物館で，同館が所蔵する資料の一部についてデジタルアーカイブズ化の打ち合わせを行った。ここでは，同館と中央研究院 人文社会科学研究中心 地理資訊科学研究専題中心の研究者との関係構築に協力することができた。

また，平成 27 年３月にも台湾を再訪した。南瀛国際人文社会科学研究中心，国立台湾図書館，国家図書館などを訪問して製糖業に関係する資料/史料を収集し，中央研究院の研究者と打ち合わせを行った。このうち，南瀛国際人文社会科学研究中心では，これまで報告されていなかった史料の詳細な内容を把握することができた。また，新営糖廠と宜蘭製糖所跡を対象に現地調査を行った。

国内での資料/史料の掘り起こしについては，平成 26 年 12 月に東京大学経済学図書館と公益財団法人交流協会の図書室を訪問して資料/史料を閲覧したほか，他の研究者との情報交換を行い，これまでに収集した資料/史料の整理なども行った。

(2)平成 27 年度（２年目）

２年目の平成 27 年度は，具体的には，以下のように調査を実施した。

平成 27 年９月に台湾を訪問した。高雄市立歴史博物館，高雄市立図書館総館，嘉義県立図書館，中央研究院，国家図書館，国立台湾図書館などを訪問して製糖業に関係する資料/史料や郷土史や地域史に関係する文献などを収集した。また，蒜頭糖廠，旧岸内糖廠，南靖糖廠，麻豆糖廠を対象に現地調査を行った。さらに，中央研究院の研究者とは，日本側で見出し，デジタル化が進行中であった戦前期の台湾の火災保険特殊地図のデータの共有に関する打ち合わせを行った。

平成 28 年３月にも台湾を再訪した。中央研究院，台北市立図書館総館，陳中和紀念館，高雄市立歴史博物館，国家図書館，国立台湾図書館，国立台湾大学図書館などを訪問して，９月と同様に資料/史料や文献を収集した。また，前述の地図のデータ共有についての打ち合わせを継続した。

国内での資料/史料の掘り起こしについては，平成 27 年５月に，防衛省防衛研究所戦史研究センター史料閲覧室，千代田区立日比谷図書文化館，国立国会図書館，12 月に東京大学経済学図書館，平成 28 年３月に嘉手納町立図書館，沖縄県立図書館，那覇市立歴史博物館などを訪問して資料/史料を閲覧したほか，他の研究者との情報交換を行い，これまでに収集した資料/史料の整理を行った。

(3)平成 28 年度（３年目）

最終年度である平成 28 年度は，これまでに収集した資料/史料を基に考察を進め，研究のまとめを行う予定であった。実際には，年度当初の４月に平成 28 年熊本地震が発生したために，特に年度前半は研究の遂行に遅れが生じ，具体的には，以下のように調査を実施した。

平成 28 年９月に台湾を訪問した。国立台湾図書館，国立中興大学図書館，彰化県文化局県史館などを訪問して製糖業に関係する資料/史料や郷土史や地域史に関係する文献などを収集した。また，橋頭糖廠を対象に現地調査を行った。さらに，中央研究院の研究者と打ち合わせを行った。平成 29 年 3 月にも台湾を再訪し，国立台湾図書館で各種資料/史料や文献を収集した。

また，製糖工場と社宅街の復元配置図作製に必要な資料/史料を収集する段階で，新たに見出すことができた火災保険特殊地図について検討を進め，査読付き論文を発表することができた。さらに，台湾 中央研究院 地理資訊科学研究専題中心とデジタルデータの共有も行うことができた。

４．研究成果

本研究課題の成果については，以下の通りである。

(1)製糖工場・社宅街を対象とした空中写真と旧版地図を用いた地図集と復元配置図の作製

本研究課題の申請時における当初の研究目的を達成するために取り組んだ成果は，主に以下の２点である。

①製糖工場・社宅街を対象とした地図集の作製

戦前期の台湾に建設された 44 ヵ所の製糖工場とそれに付随する社宅街を対象として，空中写真と旧版地図を収集することができた。空中写真からは製糖工場と社宅街の配置を読み取ることができ，旧版地図からは製糖工場・社宅街と周囲の街や集落との関係を読み取ることができる。

空中写真については，合計 700 枚以上のデジタルデータを収集し，その中から，それぞれの製糖工場に対して，1940 年代，1950 年代，1960 年代の空中写真を選定した。これらは，順に，最も日本統治時代の様子に近い時期，戦時中の米軍の爆撃による被害を復旧した時期，台湾で最も製糖業が盛んだった時期の状態を示す。さらに，現在の様子として 2000 年代の衛星写真についても収集した。

一方，旧版地図については，明治版堡図もしくは大正版堡図，戦前期の 1/25,000 地形図，U.S. Army Map Service による 1/25,000 地形図を収集した。これらは，順に，精度が高くかつ古い時期の地図，昭和戦前期の地図もしくは戦時中の地図である。あわせて，現在の 1/25,000 地形図も収集した。

また，製糖工場（跡）での現地調査も継続して行った。その結果，これまで台湾側でも情報が完備されていなかった，44 ヵ所の全ての製糖工場の位置を同定することができた。

これらの成果の一部は，「台灣製糖工場百年文史地圖」（http://map.net.tw/taisugar/）で公開されている。また，これらのデータを用いて，全 44 ヵ所の製糖工場と社宅街を対象として，地図集を作製することができた。さらに，台湾での出版を模索して，複数の出版社と交渉を行ったが，なかなか実現できなかった。その後，中央研究院 人文社会科学研究中心からの出版を前提に準備を進めている。

②製糖工場・社宅街の復元配置図作製のための各種資料/史料の収集

次に，それぞれの製糖工場と社宅街の配置図を復元するための，各種資料/史料の収集を行った。

台湾全土の図書館のうち，県立図書館レベル以上の図書館のほとんど全てを訪問でき，郷土史や地域史を中心に様々な資料/史料を収集することができた。また，台北に所在する様々な図書館を何度も訪問し，雑誌論文，台湾側の修士論文，博士論文のほか，戦前期の史料も含めて収集することができた。

一方，国内外での資料/史料の掘り起こしも試みた。防衛省防衛研究所戦史研究センター史料閲覧室を訪問し，戦書や米軍関係資料の収集も試みたが，現在のところ，それほど大きな成果は得られていない。

これらの調査によって，多くの関連する資料/史料を収集することはできた。しかし，当時の建設者の意図を読み取り，人々の生活を明らかにすることを目指して作製する製糖工場・社宅街の復元配置図のための直接的な資料/史料を，全 44 ヵ所に亘って収集できたわけではない。復元配置図の作製は難航しており，44 ヵ所のうちのいくつかについては復元可能ではあるが，全ての復元を同じレベルで揃えて行うことは難しい状況である。

そこで，まずは，これらの資料/史料を用いて，製糖工場・社宅街の敷地の範囲の推定に取り組んだ。台湾における製糖会社は，戦時中にほぼ４社に集約されるが，その４社相互，さらに，製糖工場を建設した当時の会社によって分類を行い，相互の比較を行った。その成果は，平成 27 年９月にマカオ大学で開催された国際学会 PNC2015（５．の学会発表②）と平成 28 年２月に熊本県立大学で開催された H-GIS 合同研究会（５．の学会発表①）で報告することができた。

さらに，その精度を向上させて，製糖工場・社宅街の配置図の復元へと繋げるために，地籍図の利用を試みた。しかし，平成 28 年熊本地震の影響で作業を一時中断してしまい，結局，本研究課題の研究期間中には，再開することができなかった。

(2)難航した復元配置図作製に対する打開策

本研究課題の目的は，製糖工場・社宅街の配置や製糖工場・社宅街と周囲の街や集落との関係を明らかにすることであった。(1)の②で述べたように，製糖工場・社宅街の配置図の復元作業が難航し，製糖工場・社宅街と周囲の街や集落との関係を考察するための方針について苦慮していた。そのため，その打開策として，主に以下の２点に取り組んだ。

①これまでの研究成果の整理から

製糖工場・社宅街と周囲の街や集落との関係を明らかにするための方法を模索するために，本研究課題の研究計画の立案に活かしたこれまでの研究成果を再度整理した。

樺太における製糖業に関連しては，査読付き論文が１件受理された（５．の雑誌論文⑤）。ここでは，樺太製糖豊原工場の場合は，工業の振興よりもむしろ，農業の振興を主な狙いとして誘致されたことを指摘した。

また，台湾に比べて製糖工場の数が少なく，調査が進めやすい沖縄における製糖業に関連しては，日本建築学会九州支部研究報告で報告できた（５．の雑誌論文①）。

ここでは，近世から近代にかけて製糖業が主要な産業であった沖縄県で，戦前期に建設された機械式分蜜糖製糖工場を対象として，①工場の建設過程と工場の立地に影響を与えた要因，②工場の建設に伴って建設された建築物の配置，③工場の建設による周辺地域の開発や発展への影響，について検討した。その結果，以下のように指摘できた。

①沖縄県における戦前期の製糖工場の建設は，明治 40 年代の西原（旧），高嶺（旧）ならびに嘉手納，大正５年から７年頃の豊見城，高嶺（新），宜野湾，西原（新），大東ならびに宮古，の２期に分けることができる。前者は明治 34 年の「糖業振興十年計画」の，後者は大正４年の「沖縄県産業十年計画」の影響が考えられる。また，製糖工場の立地の際には，工場用水の確保，製糖機械と製品の運搬経路の確保が十分考慮されており，糖業政策も影響を与えていた。

②米軍撮影の空中写真を中心とする各種史料から，西原，高嶺，嘉手納，宮古ならびに大東の工場と社宅群の配置を復元することができた。このうち，最も早い時期に建設された嘉手納では敷地全体の選定の際には微地形を考慮していたが，社宅は敷地内に点在させていた。一方，それ以外の４工場では地形を利用して工場と社宅群を分けていた。また，沖縄本島に位置する３工場では近隣から工員が通勤するため，離島である大東の社宅街よりも規模が小さかった。

③沖縄本島に位置する３工場の建設に関連して沖縄県営鉄道や各種軌道が建設され，地域の発展に影響を与えた。宮古では工場の建設は島内の交通整備に影響を与え，島内の産業振興を担った。大東では甘蔗栽培によって島全体の開発が進み，あたかも製糖会社の島のようになり，他の４工場とは様相が大きく異なっていた。

この研究報告では，戦前期に沖縄で発行された新聞記事の網羅的な閲覧が有用であることが判明した。この方法は，台湾の場合でも大変有用と考えられ，今後の課題である。

②外地における火災保険特殊地図

製糖工場・社宅街の復元配置図を作製するために，戦前期の詳細な地図を探索した。その際，樺太と台湾，旭川を対象とした火災保険特殊地図が，千代田区立日比谷図書文化館に所蔵されていることを新たに見出した。

まず，これらの火災保険特殊地図のデジタル化を行った。特に，台湾の火災保険地図のデジタルデータについては，台湾側と共有できた。後述の(3)とも関係するが，台湾側の研究者や研究機関と協力して，資料/史料を整備することが重要な責務と考えて，本研究課題の研究計画を立案していた。この方針に沿った取り組みを進めることができた。

火災保険特殊地図と他の戦前期の大縮尺都市地図を比較して，その有用性を検討した査読付き論文が１件受理された（５．の雑誌論文②)。ここでは，以下のことを指摘した。

①これまで存在が指摘されていなかった，戦前期に日本の影響下にあった諸地域における火保図の存在を初めて明らかにした。

②樺太の場合，特に地番図がある都市については，日比谷図書文化館所蔵の火保図が最も精度が高く，大縮尺であり，多くの情報が得られると考えられた。樺太庁発行の市街図との類似性も指摘し，一方で，各都市の経時的な変化が読み取れることも指摘した。

③台湾の場合でも，日比谷図書文化館所蔵の火保図が最も精度が高く，大縮尺であり，多くの情報が得られると考えられた。火保図によって同じ時期の多くの都市の様相を横並びで把握できること，また，火保図の作製が都市や地区の発展や密集度合いを示す目安と捉えられることも指摘した（旭川は略)。

また，これらの火災保険特殊地図の所蔵館である千代田区立日比谷図書文化館で，一般の皆さんに向けての講演を行うことができた（５．のその他④)。また，同時に開催された展示の企画にも協力ができ，研究成果の公開という面から，有益な取り組みができた。台湾でも，中央研究院 台湾史研究所で講演を行うことができた（５．のその他③)。台湾側の研究者にも講演内容に大変興味をもっていただき，よろこんでいただけた。

さらに，平成 30 年中の出版に向けて，樺太と台湾を対象とした火災保険特殊地図の復刻出版を準備中である。全ての地図が直接的に製糖業に関係するわけではないが，火災保険特殊地図を新たに見出せたことは，大きなインパクトがあったと言えよう。台湾側の研究者も復刻出版を心待ちにしてくれているとのことである。

(3)製糖業に関する史料の保存や整備への関わり

台湾側の研究者や研究機関と協力して，製糖業に関する資料/史料の保存や整備に関わることも重要な責務であると考えて取り組んだ成果は，主に以下の２点である。

①善糖文物館所蔵の史料について

台湾側の研究協力者と共に，平成 26 年９月に善糖文物館を訪問し，研究代表者を仲立ちに，打合せを行った。善糖文物館が所蔵する各種史料のデジタル化については，文物館側と中央研究院側で，当初の合意がみられたものの，その後の両者の実務的な交渉段階で作業が停滞した。資料/史料の保存体制を整備するための「繋ぎ」の役割は一定程度果たせたと考えるが，今後も長い目で見守り，タイミングを図る必要があると考えられる。

②南瀛国際人文社会科学研究中心所蔵の史料について

南瀛国際人文社会科学研究中心では，製糖業に関する史料を閲覧し，これまで報告されていなかったその詳細な内容を把握するこ

とができた。現在，その内容を整理して，冊子にとりまとめる作業を進めている。作業が終了次第，両者で情報の共有を図りたい。

(4)今後の課題

本研究課題の申請時に想定していなかった研究成果を得ることができたとは言え，当初の研究目的を全て達成したとは言い難い。今後の課題として，具体的には，以下のようなものが挙げられる。

全44ヵ所の製糖工場･社宅街の復元配置図作製の作業を継続したい。製糖工場・社宅街と周囲の街や集落との関係を明らかにするために，戦前期に台湾で発行された新聞記事の網羅的な閲覧に取り組みたい。また，製糖業に関する資料/史料の保存や整備にも継続して関わっていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　６件）

①辻原万規彦，今村仁美，戦前期の沖縄に建設された機械式製糖工場の立地と地域の発展に与えた影響，日本建築学会九州支部研究報告，査読無，第 56 号・３，2017，561-564

②辻原万規彦，角哲，青井哲人，日比谷図書文化館所蔵の樺太・台湾・旭川の火災保険特殊地図，日本建築学会技術報告集，査読有，第53号，2017，303-308
DOI：10.3130/aijt.23.303

③辻原万規彦，角哲，青井哲人，千代田区立日比谷図書文化館所蔵の火災保険特殊地図の概要，日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集，査読無，F-2，2016，843-844

④辻原万規彦，今村仁美，戦前期台湾における製糖工場と社宅街の配置図の復元に向けて，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，査読無，F-2，2015，707-708

⑤辻原万規彦，角哲，今村仁美，旧樺太製糖株式会社豊原工場に関連する建築物の図面と現況にみる特徴−旧明治製糖株式会社士別工場との比較を通じて−，日本建築学会技術報告集，査読有，第 48 号，2015，843-848
DOI：10.3130/aijt.21.843

⑥辻原万規彦，今村仁美，空中写真を用いた戦前期沖縄における製糖工場と社宅の配置図の復元，日本建築学会九州支部研究報告，査読無，第54号・３，2015，561-564

〔学会発表〕（計　２件）

①辻原万規彦，外地における地理情報を用いた社宅街の復元，H-GIS 研究会，2016 年２月 20 日，熊本県立大学 CPD センター（熊本県熊本市）

②Makihiko TSUJIHARA and Satomi IMAMURA, Restoration of Taiwan Sugar Industrial Company Town Plans - Using Digital Geographic Information Archive -, PNC 2015 Annual Conference and Joint Meetings, アブストラクト査読有，2015 年９月29日，University of Macau（マカオ特別行政区（中華人民共和国））

〔その他〕（計　４件）

報道関連情報

①朝日新聞 2016 年１月 14 日付け朝刊・北海道総合面(28 面),「サハリンの建築遺産 上「双子」80 年なお現役」，旧樺太製糖豊原工場と日本甜菜製糖士別工場に関する記事への研究代表者による取材協力と情報提供

②ロシア NOW（Russia Beyond the Headlines 電子版日本語版）2015 年 12 月 28 日付け，「サハリンに残る「南樺太」時代の工場、今も現役」，旧樺太製糖豊原工場と日本甜菜製糖士別工場に関する記事への研究代表者による取材協力と情報提供

アウトリーチ活動情報

③辻原万規彦，日比谷圖書文化館所藏台灣的火災保險地圖（The Fire Insurance Maps of Taiwan Owned by the Hibiya Library & Museum），臺灣 中央研究院 臺灣史研究所 社會經濟史研究群專題演講，2017 年３月 28 日，中央研究院 臺灣史研究所（台湾（中華民国）台北市）

④辻原万規彦，火災保険特殊地図の面白さ，『地図と都市 ―台湾・樺太の『火災保険特殊地図』と都市研究の可能性―』（日比谷カレッジ 企画展示関連講座　古書で紐解く近現代史セミナー 第 25 回），2017 年２月 18 日，千代田区立日比谷図書文化館日比谷コンベンションホール（大ホール）（東京都千代田区）

６．研究組織

(1)研究代表者

辻原　万規彦（TSUJIHARA, Makihiko）
熊本県立大学・環境共生学部・教授
研究者番号：４０３２６４９２

(2)研究協力者

今村　仁美（IMAMURA, Satomi）
角　哲（KAKU, Satoru）
青井　哲人（AOI, Akihito）
廖　泫銘（LIAO, Hsiung-Ming）
林　玉茹（LIN, Yu-ju）